



やきもの散歩道とは

愛知県常滑市にあるやきもの散歩道は、

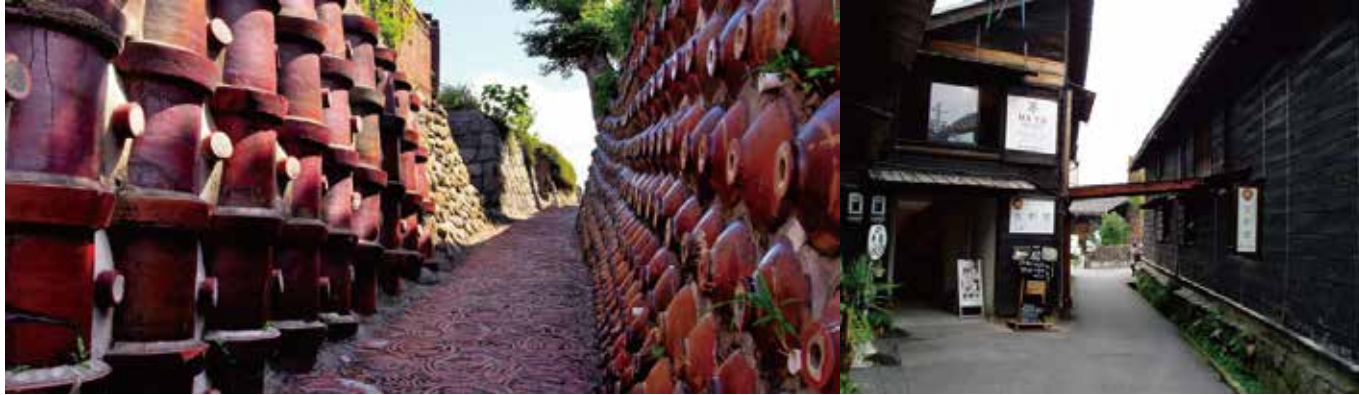
昭和初期頃最も栄えた窯業集落である。

現在も煙突・窯・工場など時代とともに使われなくなった歴史的産業遺産が残っている

そこには、ギャラリーやカフェ・雑貨・体験教室

などの施設があり、それらを求めて若者や家族連れ・高齢者

など多くの人々が行きかう場所である



ダイアグラム

風を受け入れる

海側から海陸風が吹き、その風圧が強く、やきものを乾燥させるには適していない。しかし、丘にぶつかることで、敷地には風圧の弱い風が吹く。丘を超えてきた風は、やきものを乾燥させるのに適している。

この風を、各部屋に届くような配置とする。



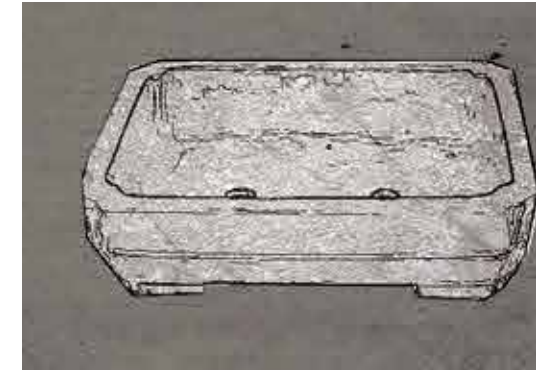
背景

1

焼き物を作る工程と「湿気」や「気温」、「風通し」、「日光」などの風土は密接な関係がある。その中でも、乾燥の段階では特に気を使わなければならない。乾燥は難しい工程であるが、それを魅力ととらえる人々がおり、実際に他の地域の陶芸体験では、土を練るところから教える教室も増えてきている。また、陶芸を趣味とする人々も増え、自宅に先生を呼ぶ人々も出てきている。

2

常滑焼の乾燥方法は箱の蓋の開け閉めによる湿度や温度の調整を行うやり方で、職人でなくても風土に気を使いながら蓋の開け閉めをすることで、乾燥を行うことができる。



やきものを作る工程（乾燥）と風土の関係

湿度 80% 程度に保つ

直射日光を避ける

温度 40% 以下に保つ

風通しの良いところに置く

陶器のひび割れや変型を防ぐ

コンセプト

長時間やきものに触れることのできる滞在型体験施設として

風土を感じ自ら制作する施設を提案する。

気温と湿度に対応

一階の工房部分を地中に埋めることで、気温の変化を緩和し、乾燥を行いやすくしている。また、埋めた側の壁を吸放湿性のあるやきものや石垣、レンガなどを使うことで、湿度の調整の助けとなる

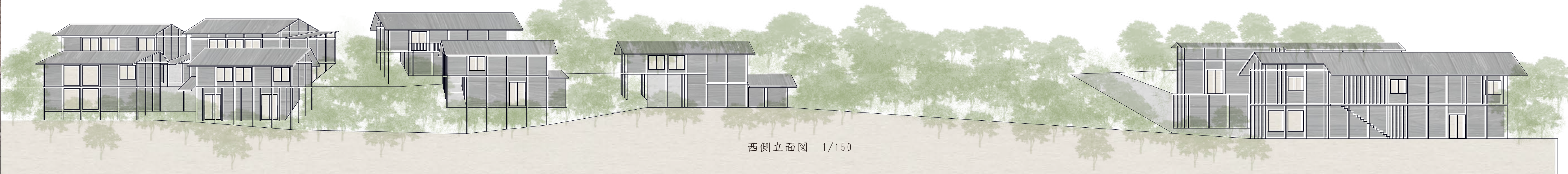
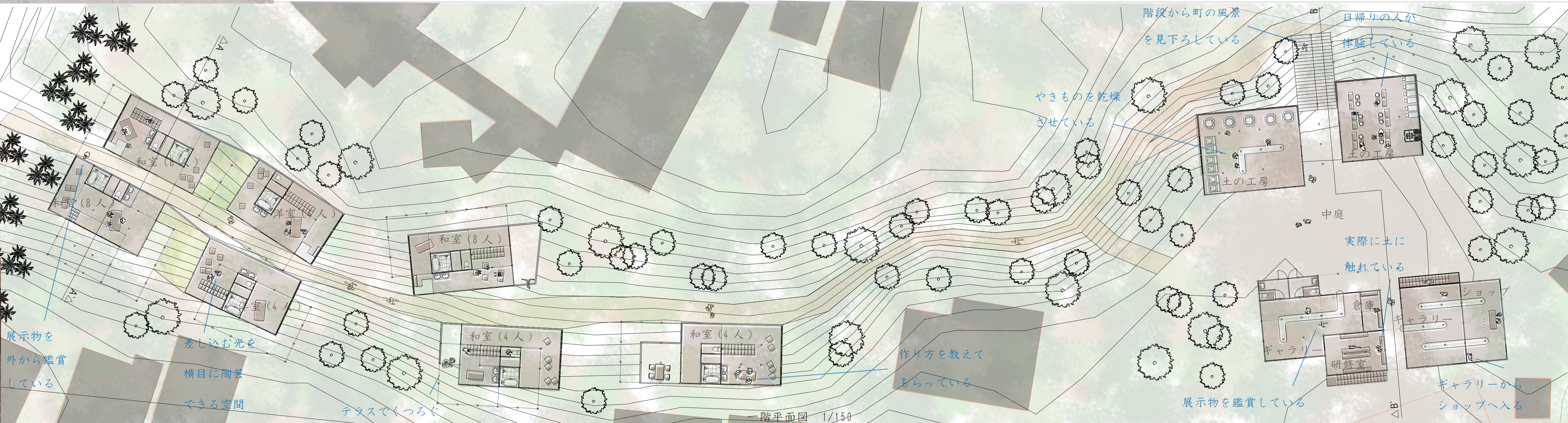
日光の取入れ

直射日光による、陶器のひび割れを防ぐために工房には、直射日光を取り入れない。二階などの工房以外の部屋に日光を多く取り入れ、壁や天井に光を反射させることで、工房に柔らかい光を取り入れている。

南面立面図 1/150

上パース
やきもの教室の先生が宿の陶芸空間に行き、そこで陶芸教室が行われる

下パース
日常を忘れることができる奥まった空間で、陶芸を楽しんでいる



西側立面図 1/150

散歩の入り口

各々の宿に設けられたギャラリーを見ながら歩く道である。各々の宿にギャラリーを設けることでギャラリーごとに個性が出る。それらはプロやアマの境をなくし、個性的な陶器をより多く生み出せる場所となる。個性的な陶器を見ながら歩けるこの道はアイデアの倉庫であり訪れた人と感想を共有し、ここにしかない非日常が味わえる。

交流や休息ができる共有の庭

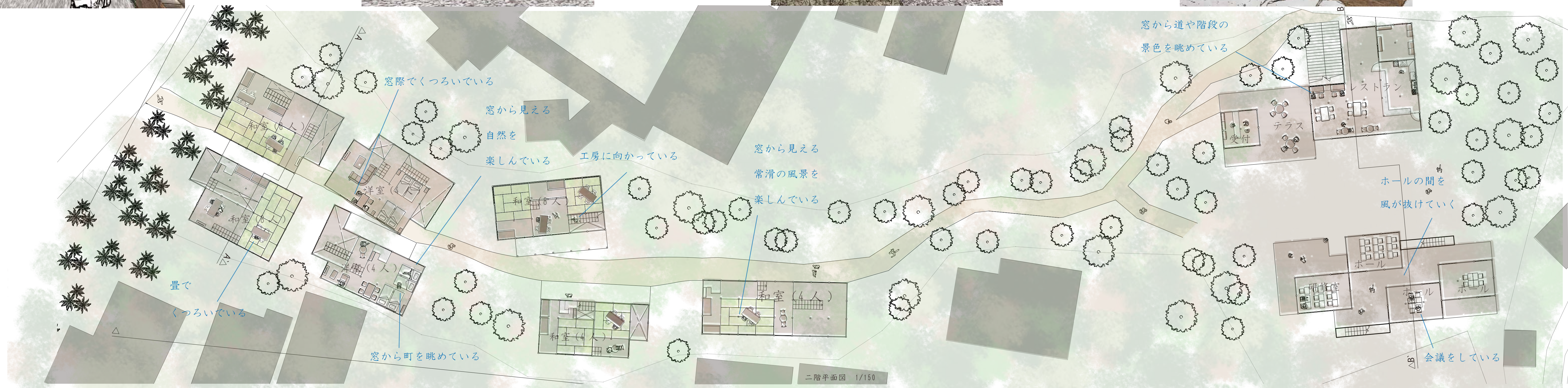
宿と宿の間に設けられた庭であり道からも直接アクセスできる。この庭では、宿泊者同士の交流や道を歩いている人との交流が行われる。また、一階の暗い部屋から直接出ることができ、作業の休憩中に休憩することができる。

ショップと宿をつなぐ道

宿泊客以外の人も多く訪れるショップやホールの敷地と宿の並ぶ敷地をつなぐ道であり、非日常をより感じれるように、もともと植わっていた森を残し緑に覆われた道とした。ここを通る人は、木々の隙間から、常滑の街を見下ろし、春夏秋冬を楽しむ次の行き先へと向かう。

ショップを見下ろす道

道の出出入り口であり、ショップやカフェ、ホールの賑わいを感じることができる。この道から特設カフェに入ったり、中庭へ行くことができる。ここでは宿泊者だけでなく多くの人が利用しにぎわう。



二階から緑を楽しむ寝室

この部屋は二階であるが、傾斜に一階が埋まっているため窓から見える景色は、一回のように地面と近く自然を満喫できる空間である。自然との距離が近いと、風土の変化を感じやすく陶芸の助けとなる。



カフェ

陶芸体験やギャラリー見学途中に休めるカフェ。カウンター席からは、道を歩く人が見え、テラス席からは、ショップの賑わいを感じることができる。

街を眺める窓

二階の反対の窓からは、常滑の街並みを眺めることができる。ギャラリーを見ながら歩いている人や焼き物散歩道にある他のショップの様子、さらにはやきもの散歩道以外の常滑の街を見渡すことができる。この窓は部屋に日光を取り込み部屋を明るく開放的な空間にする。

ショップの入口

向かいにあるギャラリーの賑わいを取り込み、多くの人が行きかう。

